

2013年2月12日実施

解 答

1 (A)	2 (C)	3 (D)	4 (C)	5 (A)	6 (C)
7 (C)	8 (C)	9 (B)	10 (B)	11 (C)	12 (B)
13 (B)	14 (A)	15 (B)	16 (D)	17 (C)	18 (A)
19 (A)	20 (D)				

1. 「私はジェニファーが本当に好きだが、彼女がなぜあんなふうな振る舞いをするかがわからない」

▶ as she doesで「実際そうしているように」の意で、直前の動詞(句)を強調する言い方。

接続詞asの用法

(1) 時・同時状況 「～するとき(に)/～しながら」 *whenより同時性が強い。

(2) 比例 「～するにつれて」

▶ 通例「grow[become/get]+比較級」の構文と一緒に用いる。

As we went up the mountain, the air became thinner.

(山を登るにつれて、空気が薄くなった。)

(3) 原因・理由 「～なので」 *この意味ではbecause/sinceを多く用いる。

(4) 謙歩 「～だけれど」 *形容詞[副詞/名詞]+as SVの形で用いる。

(5) 様態 「(～する)ように/～の通りに」 (= the way)

I wish we had done as we were told.

(私たちは言われた通りにしたらよかったです。)

▶ 口語ではthe wayがasと同じように用いられる。

Things didn't go the way we had expected them to.

(物事は私たちが期待したようには進まなかった。)

(6) 直前の名詞を限定して 「(～する)ような/(～した)ときの」

language as we know it 「私たちが知っているような言語」

2. 「私は、プレゼンテーションが活発な議論の口火を切ることを期待した。しかし、誰もまったく質問しなかった」

▶ 動詞expectの語法を問う問題である。expect A to doで「Aに～してほしいと思う/Aが～するだろうと思う」という表現で、(C)が正解である。

[例] *I expected Sandy and her family to come.*

(私はサンディーとその家族に来てほしいと思った。)

3. 「あなたがニューオリンズジャズに興味を持っていれば、このCDは聞く価値がある」

▶ worth doingで「～する価値がある/～するに値する」という表現になるので、選択肢は(B), (D)にしほられる。空欄に入る動詞の意味上の目的語はthis CDなので、「～に耳を傾ける」という意味の(D)listening toが正しい。hearは他動詞で「～が(自然)と耳に聞こえてくる」の意味なのでtoは不要である

□ worth doing[名詞] 「～する価値がある／～するに値する」

▶ worthの目的語は通例動作を表す名詞・他動詞の動名詞で、いずれも受身的意味をもつ。このworthは前置詞である。

The museum is worth visiting[a visit].

(その美術館は、訪れる価値がある。)

cf. be worthy of doing[名詞] 「(～に/～するに)値する/価値がある」

The incident is worthy of being remembered.

(その事件は記憶に値する。)

4. 「学校は今日、吹雪により休校になった」

▶ 文意より空欄には『原因』を表す語句が入ると予想できる。(A)becauseと(B)sinceは接続詞なので、the snowstormという句はとれない。(D)は、as a result of なら

ば意味が通じる。よって、「～のために/～が原因で」という原因を表す群前置詞の(C)due toが正解である。

□ **due to** ~ 「～のために/～が原因で」 (= because of/on account of/owing to)

I was half an hour late due to the heavy traffic.

(車が多かったので、半時間遅れました。)

- ▶ due to ~は群前置詞としての用法のほかに, **be due to** ~「～ため[せい]である/～による」の形も重要である。

His big success was due to his patience and diligence.

(彼の大成功は忍耐と勤勉によるものである。)

5. 「ジョンは勤勉だ。対照的に、彼の兄(弟)は怠惰だ」

- ▶ 第1文と第2文で「勤勉なジョン」「怠惰な兄(弟)」と対照的な内容になっている。空欄直後のcontrast「対照」と合わせて意味の通る副詞句を作る(A)Inが正しい。

□ **in[by] contrast** 「それとは対照的に」

It's hot outside, but, *in contrast*, it's cold inside.

(外は暑いが、それに比べて中は寒い。)

cf. **in[by] contrast to[with]** ~「～と比べて」

This approach to learning stands *in sharp contrast to* the traditional methods.

(この学習法は伝統的な方法とはまったく対照的である。)

6. 「我々は絶対に間に合わないよ！飛行機は、我々が空港に到着するときまでに出発しているだろう」

- ▶ 文意より「飛行場に着く前に」飛行機が出発していることを予想していると考えられるので、完了の期限を表す前置詞である(C)byを選ぶ。(D)untilは動作や状態の継続を表す。(A)while「～している間」, (B)after「～の後に[で]」。

□ **by the time** ~ 「～するまでには」『完了の期限』

- ▶ 『動作や状態の継続』を表すuntil[till]と混同しないように。

{ I will be back **by the time** you leave.
(君が帰るまでには戻ります。)
{ I will be here **until** you leave.
(君が帰るまでずっとここにいます。)

7. 「タロウは通訳になることに興味を持っている。それで、彼は英語とスペイン語を勉強している」

- ▶ 選択肢に用いられているinterestは, SV+O₁ in O₂で「O₁(人)にO₂(物・事)に興味を持たせる」という意味である。この動詞は人を主語にした受動態で日本語での能動態を表現する。よって(C)が正解。

□ **be interested in** ~ 「～に興味がある」

I'm not very *interested in* sports.

(私はあまりスポーツに興味がない。)

▶ 「～に興味を持つ」は**have[take] (an) interest in** ~

I have[take] an interest in genetic engineering.

(私は遺伝子工学に興味を持っている。)

8. 「メアリーは警察官の試験を受けることができる前に、最初に高校を終了しなければならなかった」

- ▶ before節中にcouldがあるので、過去の義務を表す(C)had to do「～しなければならなかった」が適切。

□ **had to do** 「～しなければならなかった」

- ▶ 過去や未来ではmustを使えないで、have toを代用して, had to/will have toになる。もちろん現在でもhave toを使ってよい。

The car broke down, and we *had to* get a taxi.

(車が故障したので、タクシーを拾わなければならなかった。)

9. 「郵便配達人は、今日はポッター氏宛の手紙は持っていないかった」

▶ 否定文であることと、空欄直後がlettersと可算名詞複数形となっていることから、(B)を選ぶ。

□ **not ... any** ~「少しも～ない」

There isn't any possibility of his failing.

(彼が失敗する可能性は少しもありません。)

10. 「彼のスーツケースは非常に重かったので、トーマスはそれを飛行機に乗せることを認められなかった」

▶ 空欄直後のheavyとthat以下の文意から、「スーツケースが重かったので、飛行機に乗せることを許可されなかっ」と考えられる。so ... (that) ~で「とても…なので～」という表現なので、(B)が正解である。

□ **so ... (that)** ~「とても…なので~/~するほど…」

I was so absorbed in reading the novel that I forgot to call her.

(その小説に夢中になってしまって、彼女に電話するのを忘れてしまった。)

▶ 前に否定語がある場合は「～するほど…(でない)」と後ろから前に訳し上げるとよい。

He is not so old that he connot work.

(彼は働けないほど年寄りではない。)

11. 「私の母親のクッキーのレシピでは、カップ1杯分のチョコレートチップが必要である。しかし、私は、よく好んでレーズンで代用する」

▶ (A)change「～を変える」, (B)replace「～を取り替える」, (C)substitute「～を代用する」, (D)exchange「～を交換する」。第1文の内容から、(C)が最適である。

[例] *I substitute honey for sugar.*

(私は砂糖の代わりにはちみつを使います。)

12. 「私は、ダンのピアノの進歩の度合に本当に感動している。彼はほんの6カ月前に弾き始めたばかりだ」

▶ make progressで「進歩する」という群動詞。progressは不可算名詞である点に注意。(A)development「発達」, (C)growth「成長」, (D)advance「進歩、前進」。

[例] *She has made rapid progress in English.*

(彼女は英語が急速に進歩した。)

13. 「アンナは、2分間水中で息を止めることができる」

▶ hold one's breathで「息を止める/息を殺す」という群動詞。

[例] *The boy held his breath for a while.*

(その少年はしばらくの間息を殺した。)

cf. **hold one's tongue** 「黙っている」 (= **keep silent**)

14. 「すみませんが、この近くにコンビニエンス・ストアがあるかどうかご存知ですか？」

▶ Do you have any idea ~で「～がわかりますか/心当たりがありますか」という慣用表現である。(B)suggestion「提案」, (C)advice「助言」, (D)direction「方向、指示」。

[例] *Do you have any ideas for a present.*

(何かプレゼントの計画はおありますか。)

15. 「私は、スタンリーがベイカーさんを侮辱したことで、彼を許すことはできないだろう」

▶ forgive A for Bで「AのBを許す(=excuse A for B)」という表現。(A)apologize「謝る、謝罪する」, (C) regret「～を後悔する」, (D) argue「～を論ずる」。

□ **forgive A for B** 「AのBを許す」 (= **excuse A for B**)

Please forgive me for not having written for a long time.

(長い間手紙を書かなかったことをお許しください。)

16. 「おはよう、私にバーカー氏の事務所へ行く道を教えていただけませんか？」

▶ direct A to Bで「A(人)にBへ行く道を教える」という表現。

[例] She *directed* me to the airport.

(彼女は私に空港への道を教えてくれた。)

Can you *direct* me to the station?

(駅へはどのように行けばよいでしょうか？)

17. 「本当においしいカレーを作りたければ、最も新鮮な材料を使用する必要があるだろう」

- ▶ 料理の食材は(C)ingredient(s)である。(A)fillingは「詰め物、充填された中身」,(B)componentは「成分、構成要素」,(D)contentは「内容物、含有量」の意である。

[例] Mix all the *ingredients* thoroughly in a bowl.

(ボウルにすべての材料を入れて混ぜ合わせなさい。)

18. 「部屋を出る時は常に、ドアがしっかりとロックされていることを確かめてください」

- ▶ 選択肢全てが動詞なので、文脈より最適なものを選ぶ。make sure that ...で「...を確かめる」というイディオムであるので(A)が正解。

□ **make sure that ...** 「～を確かめる/必ず～するように手配する」

I consulted the dictionary to *make sure* (that) I had spelled the word correctly.

(単語を正しく綴ったことを確かめるために辞書を引いた。)

▶ thatは省略可。

▶ make sureの後はthat節のほか, of + 名詞が続く。

Search your pockets again to **make sure of** it.

(もう一度ポケットを探してそれを確かめなさい。)

19. 「人口の70%以上が、新しい増税に反対した」

- ▶ 選択肢のすべてが似たような意味で、時制・態も同じなので空欄直後にあるtoにふさわしい語法の動詞を選ぶ。(B)は自動詞としてcomplain about[of] ~などの形で用いる。(C), (D)は他動詞で後にtoが続かない。よって, object to ~「～に反対する」となる(A)が正解。

□ **object to ~** 「～に反対する」 (= oppose ~)

They *objected* to my[me] going abroad.

(彼らは私が外国へ行くのに反対した。)

cf. **be opposed to ~** 「～に反対している」 (= be against ~)

▶ このopposedは叙述用法の形容詞である。

They *were opposed* to my proposal.

(彼らは私の提案に反対していた。)

20. 「雨が7時までに止まない場合、我々の野球の試合は中止されそうだ」

- ▶ (A), (B)は副詞なので, to be cancelledに続かない。(C)probableは, It is probable that ...の形で用いられ、人を主語にしたり, to不定詞を使うことはできない。

[例] *It is probable* that he will pass the exam.

(彼はおそらくその試験に合格するだろう。)

□ **be likely to do** 「～しそうである」 ⇔ **be unlikely to do** 「～しそうもない」

The price of computers *is likely* to fall again.

(コンピューターはまだ安くなりそうだ。)

He *is unlikely* to arrive on time.

(彼は時間通りに来そうもない。)